

平成 21 年度環境技術実証事業検討会ヒートアイランド対策技術分野
(オフィス、住宅等から発生する人工排熱低減技術)
IT 機器等グリーン化技術 ワーキンググループ会合 (第 2 回)
議事要旨

1. 日時：平成 22 年 3 月 19 日 (火) 15:00～17:00
2. 場所：JA ビル 3 階 303 号室
3. 議題
 - (1) 平成 21 年度における検討状況について
 - (2) 今後の実証試験について
 - (3) その他
4. 出席検討員：市川晴久、上笠健、植田隆、西岡浩、西崎亨、松野泰也、森川泰成
5. 配布資料
 - 資料 1 平成 21 年度における検討状況について
 - 資料 2-1 平成 21 年度実証試験について
 - 資料 2-2 今後の実証試験について

 - 参考資料 1 関連技術及び企業について
 - 参考資料 2 関連事業の動向について
 - 参考資料 3 グリーン IT 推進協議会での検討について (非公開)
 - 参考資料 4 平成 21 年度 環境技術実証事業実施要領
6. 議事

会議は公開で行われた

 - (1) 平成 21 年度における検討状況について
 - ・ 資料 1 に基づき、平成 21 年度における検討状況について、事務局より説明がなされた。

(2) 今後の実証試験について

- 資料 2-1、2-2、参考資料 1、2 に基づき、今後の実証試験について、事務局より説明がなされた。
- 参考資料 3 に基づき、上笠検討員より、グリーン IT 推進協議会でのデータセンターに関する取り組みについて説明がなされた。
- 本年度実証の申請がなかったことに関して、資料内に示された要素に加えて、試験の開始時期や試験期間も影響しているとの意見があった。

(製品単位の実証に関して)

- SPECpower 試験の費用の点、サーバでの評価基準の統一化の動向を考えると、製品単位の実証は難しいのではないかと意見があった。

(システム単位の実証に関して)

- データセンターの消費電力を測定したいとのニーズはあるだろうとの意見があった。
- PUE は、まだ横並びの評価ができる段階でなく、測定方法を統一する段階であるとの意見があった。
- PUE を使用するにしても、匿名で大規模にデータを収集し、ざっくりとデータを集める方針が妥当であるとの意見があった。
- 小規模なサーバールームを構築する一般の企業であれば、データを公開する抵抗はないだろうし、現状では測定方法が整っているわけではないので、当事業で検討対象となりうるのではないかと意見があった。
- 枠組みとして、データセンターを対象とする考え方は適切だが、インセンティブとヒートアイランド対策とを結びつけるのは難しく、来年度の事業継続は難しいとの結論とすることで、全体の確認が得られた。この結論を踏まえ、他事業の動向を見極める期間を設けることとなった。

(3) その他

- 検討会発足当初の状況と異なり、サーバの省エネは進んでおり、総電力量は増加の傾向にはない。その点も踏まえて、今後検討をお願いしたいとの意見があった。

(文責：環境省水・大気環境局環境管理技術室速報のため事後修正の可能性あり)